

トルコ音楽について

トルコの音楽を簡単に語るのはとても難しい。なぜ難しいのか。それは現代のトルコ共和国という国の成り立ちと関係している。600年以上にわたって広大な領域を支配したオスマン帝国が第一次大戦の敗北によって解体し、現代のトルコ共和国ができたのは1923年である。一般にオスマン音楽とも呼ばれるトルコ古典音楽は、多民族国家であったこのオスマン帝国時代からの伝統をもつ音楽をさす。オスマン朝時代は、豪華な宮殿や館で音楽や舞蹈が行われ、その音楽はアラブやイランの洗練された古典音楽の影響を受けたものだった。現代のトルコ音楽用語であるマカームはアラブの音楽用語でもあることからもそれが伺える。マカームとは、インド音楽のラガに似た音階による旋法システムのこと。また、ウード、カーヌーン、ネイなどの楽器もアラブ古典音楽と共通である。メフルトルとして知られる軍樂もオスマンの遺産である。いっぽう「トルコ音楽」は、トルコ共和国成立後の、オスマン宮廷と直接関わりのない音楽の総称として使われる場合が多い。多民族国家であったオスマン朝と違い、現在のアナトリア半島を中心とした範囲にまで縮小したトルコ共和国では当初、トルコ人という民族性をアイデンティティの基礎に作られたため、民謡などの民俗音楽が重視された。トルコの音楽を一口で説明するのが難しいのは、今日一般にトルコ音楽という場合、民謡などの民俗音楽を基礎としたものの、共和国成立後しばらくして見直されたトルコ古典芸術音楽、さらにこの両者の融合したもの、これらを中心として数多くのジャンルが含まれるからである。

さて、今回の公演は、おおざっぱに第1部を「オスマン音楽」、第2部を「トルコ音楽」に分けた。第1部の最初は尺八の古典本曲である。トルコの音楽と尺八は直接関係ないが、トルコと日本

の自由リズムの音楽を聴き比べてほしかったのでプログラムに載せた。自由リズムの音楽というのは、一定の拍節をもたない、つまり手拍子の打てないもの。尺八の古典本曲はほとんどがそうである。統一平置のハープといえるカーヌーン、イスラーム世界の代表的な弦楽器ウード、尺八によく似た発音構造のネイによるトルコ古典音楽のサズ・セマイ、ベシュレヴという器楽様式の曲。それぞれ導入部で演奏されるタクスィームがやはり自由リズムである。タクスィームとはマカーム（音階型）に基づいて即興的に演奏される部分をさす。トルコの音楽には自由リズムによるものが他にもある。民俗音楽のウズン・ハワー（長い歌）という様式である。これは第2部で紹介される。この、西洋音楽ではない自由リズムの音楽は実はユーラシア全域で見られる。追分様式の日本民謡、モンゴルのオルティン・ドー（長い歌）、インド音楽のアーラーブ、イランのアーヴィーズ、ハンガリー民謡のバルランド・ルバート、そしてトルコ古典音楽のタクスィームやウズン・ハワー。虚無僧尺八とネイを聴き比べると、アジアの両端にある縦笛の意外な共通性を感じられるだろう。

第2部はトルコの民謡が中心である。先に挙げた自由リズムのウズン・ハワーの他に、軽快な変拍子に基づくクルク・ハワー（割られた歌）の曲。ネイ、カーヌーン、ウードの他に、重厚な撥弦楽器バーラマの獨特な響きと力強い歌声が、9拍子、10拍子といった変拍子の軽快なリズムに乗って響き渡る。最後は中東アナトリアの民謡を、インドの竹笛バーンスリーも加わり全員で演奏して終わる。

HIROS／中川博志（インド音楽演奏・研究家）

出演者プロフィール



トゥラン・ウルグン
(Turan Vurgun / カーヌーン、ウード)

1958年にトルコで生まれ、イスタンブルのITU国立音楽大学で古典音楽、カーヌーン、そしてウードを勉強し、数ある中で中近東古典音楽とイスラム世界の宗教音楽を演奏し、教えた。現在ヨーロッパで演奏、授業そして指揮の活動を行っている。



セフェル・シムシェイキ
(Sefer Şimşek / バーラマ)

1975年トルコ・トカト生まれ、5歳でバーラマ(サズ)を弾き始める。12歳の時、ASM(Arif Sağ Müzik Okulu: アリフ・サーのイスタンブルにある音楽学校)に入りEmre Saltuk(トルコで有名なサズプレイヤー)の元、サズを学ぶ。現在は、日本でサズ教室の講師や、演奏者として活動。



HIROS; 中川博志（バーンスリー／企画／進行）

1950年、山形県生れ。1981年～1984年インドのペナレス・ヒンドゥー大学音楽学部楽理科に留学、インド音楽理論を研究。大学のかたわら、バーンスリー(横笛)、ヴォーカルを習う。帰国後、アジア各国及び日本のパフォーミングアーツ紹介の活動を続いている。叢書『インド音楽序説』は日本語で出版されている唯一のインド音楽論書。

(ホームページ: <http://sound.jp/tengaku/>)



トルガ・ウナルディ
(Tolga ÜNALDI / ネイ)

1975年、トルコ・アンカラ生まれ。アンカラ州立音楽院楽理科で、民族音楽および民俗音楽を学ぶと同時に、トルコ伝統音楽や実験音楽の演奏活動を始める。彼の主奏楽器はネイであるが、他のさまざまな民族楽器も演奏する。自身の演奏活動の他、現代舞踊の伴奏などもつとめる。現在、イェルドウズ工科大学芸術デザイン学部音楽学科の研究アシスタント。



アブドゥルラッハマン・ギュルベヤズ
(Abdurrahman Gülbeyaz / パーカッション、バーラマ)

1962年にトルコで生まれ、ハンブルク大学で言語学と音楽学を専攻した。トルコとヨーロッパでトルコ東地中海のダンスを演じ、教え、それと平行して様々なバンドで、弦楽器と打楽器の奏者として活動した。現在はいくつかのバンドとプロジェクトで演奏し、打楽器、バーラマ(サズ)そしてトルコと中東の音楽の理論を教えている。



石川 利光（いしかわとしみつ / 尺八）

大阪府出身。琴古流尺八および古典本曲を横山勝也に師事。NHK邦楽技能者育成会第37期首席修了。平成7年度文化庁芸術インセンティブ研修員。国際交流基金の派遣他によりインド、アメリカ、イス、オーストリア、ポーランド、ベルギー、オーストラリア、シンガポールの各国にて公演。

(ホームページ: <http://shaku8-ishikawa.com/>)

世界音楽における即興 シリーズその2 「トルコ音楽」

<講 義>

- 日 時：2011年8月26日(金) 19:00～
8月27日(土) 19:00～
8月28日(日) 16:00～
■料 金：各回1,000円／全回一括は2,400円(会員:1ドリンク付)

<コンサート>

- 日 時：2011年9月4日(日) 19:00～
■料 金：前売予約2,500円(会員 2,000円)／当日 3,000円

■会 場：CAP CLUB Q2

〒650-0041 神戸市中央区新港町4-3 上屋Q2 2階

phone: 078-959-7707 (会場への問合せは当日のみ応答できます)

■予約・問合せ：C.A.P.事務局 (10:00-19:00／月曜休み)

イベント名、お名前をお知らせ下さい

e-mail: info@cap-kobe.com

H P : <http://www.cap-kobe.com>

phone: 078-222-1003

■主 催：C.A.P.(芸術と計画会議)

■助 成：アサヒビール芸術文化財団

■チラシ印：駒井 和彬



<コンサートプログラム(予定)>

■虚無僧尺八(石川利光)

鶴の巣ごもり 産安

■トルコ古典器楽(オスマン宮廷音楽の器楽曲)

1. シャダラバン・サズ・セマイ
2. ヒジャーズ・ベシュレヴ
3. モハイヤル・クルディー・サズ・セマイ
4. プーセリキ・タクスィーム(トルコ音楽アンサンブル+尺八)

■トルコ民俗音楽

1. 「産んで、養育した、息子が入隊して二度と帰って来ない母の哀歌」
2. 「ザビデエ」
3. 「あなたの頭のスカーフを黄色に塗ったかい?」「オルドウの路上」
4. 「キジロール」
5. 「秘書よ、私の請願書を恋人に次のように書いてくれ」
6. 「トカト・セマップ」
7. ケル語での連続歌「私の光のアフメット」「あなたは山上にあるイチジクの木だ」「アメディヤ」
8. 「イエディクレ」
9. 黒海の連続歌「踊れ、娘たち、踊れ」「私のアピトルの握りを薔薇で飾る」「アスカラス小川」
10. 「鶴のセマップ」(トルコ音楽アンサンブル+尺八+バーンスリー)